

# 3タイプ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）による KINDEX 対震ドアの提案

KINDEX 対震ドアの3タイプ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）は調整機能付対震丁番と高品質多機能気密ゴム及びカバー工法『対震ドア仕様』で、地震対策も備えたドアへ大変身します。

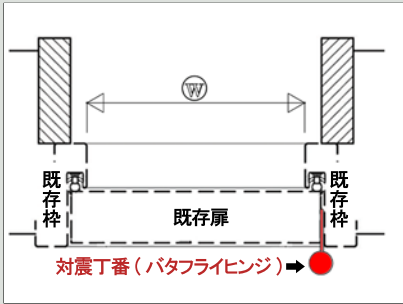
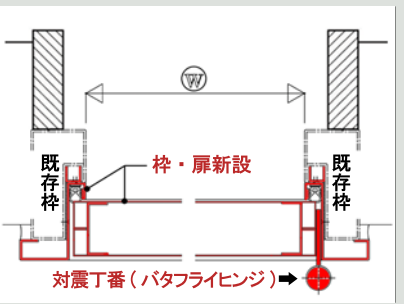
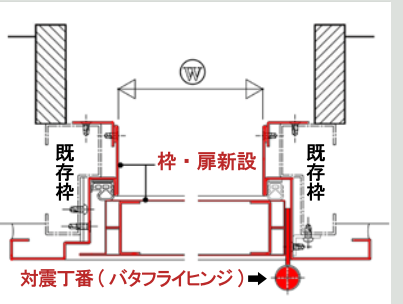
## KINDEX 対震気密化工法3タイプ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の比較評価

★対震の評価は当社規定になります。

型式記号	改修取替え内容	評価
Ⅰタイプ	既存の枠、扉本体を残したまま、対震丁番に取り替える。	★★★
Ⅱタイプ	既存枠の上に新しい枠、扉を取り付け開口の狭まり無しにした工法です。	★★★★★
Ⅲタイプ	既存枠の上に新しい枠、扉を取り付け『3次元微調整機能』にした工法です。	★★★★★

コストを抑えた3タイプでご予算・ご要望に合わせたご提案をさせていただきます。

## 地震対策を備えた機能性ある3タイプ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の詳細

	Ⅰタイプ	Ⅱタイプ (シンプルカバー工法)	Ⅲタイプ (スーパーカバー工法)
断面図			
改修仕様内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●枠・扉・金物は既存利用。</li> <li>●調整機能付対震丁番。</li> <li>●気密ゴム（パンダパッキン）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●枠は既存利用。</li> <li>●新規（枠・扉・金物）</li> <li>●開口寸法の減少無し（W・H 0 mm）</li> <li>●調整機能付対震丁番</li> <li>●気密ゴム（パンダパッキン）</li> <li>●対震ドアガード</li> <li>●ドアクローザー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●枠は既存利用。</li> <li>●新規（枠・扉・金物）</li> <li>●開口寸法の減少有り（W・H 15 ~ 25 mm）</li> <li>●丁番部対震調整プレート</li> <li>●調整機能付対震丁番</li> <li>●気密ゴム（パンダパッキン）</li> <li>●対震ドアガード</li> <li>●ドアクローザー</li> </ul>
コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●製品のみ 22,000 円（税込）～（取付工事費は別途）</li> <li>●取付工事費含む場合は現地調査が必要です。</li> <li>●当参考見積価格は、1物件当り 30 戸を目処としています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●製品のみ 99,000 円（税込）～（取付工事費は別途）</li> <li>●取付工事費含む場合は現地調査が必要です。</li> <li>●当参考見積価格は、1物件当り 30 戸を目処としています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●製品のみ 132,000 円（税込）～（取付工事費は別途）</li> <li>●取付工事費含む場合は現地調査が必要です。</li> <li>●当参考見積価格は、1物件当り 30 戸を目処としています。</li> </ul>
性能向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●枠形状の ST 枠（気密ゴム無し）用は、後付取付可能な 2 パターン気密ゴムで、さらに SAT 枠（気密ゴム有り）用は万能気密ゴム（パンダパッキン）で隙間風対策が出来ます。※ST 枠（既設枠）は、気密ゴムが付いていない玄関ドア用の工法です。</li> <li>●シンプルカバー工法とは、<b>開口寸法狭まり無し</b>で車椅子利用を想定した工法です。</li> <li>●スーパーカバー工法とは、建物耐震性に沿った調整機能付対震丁番を使用し地震時ドア開放・震災後の<b>ドア開閉・戸締り</b>をしやすい構造です。</li> </ul>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調整機能付対震丁番とは・・・</li> </ul> <p>従来の対震丁番は扉本体を上下にしか動かすことが出来ませんでした。それにプラスして調整機能付対震丁番は、扉側丁番のビス位置を、調整可能にすることで、扉本体の出入り（前後）±3 mm動かすことができ又、対震調整プレートを挟んでいる場合は、取り外すことで W 寸法（開口寸法）を 3 mm大きくすることができます。</p> <p>これらにより『3次元微調整』が可能となります。・・・【特許取得・発明奨励賞受賞（令和元年 11 月 8 日）】</p>		